

平安京右京六条一坊三町跡発掘調査現地説明会資料

2008年7月19日

所在地 : 京都市下京区中堂寺南町
調査面積 : 約 1,900 m² (現在西側約 1,000 m²を調査中)
調査期間 : 2008年5月8日～2008年8月31日 (予定)
調査機関 : 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 (ホームページ <http://www.kyoto-arc.or.jp/>)

はじめに

調査地は平安京跡の右京六条一坊三町の南西部(東四行・北七及び八門)にあたり、西坊城小路と楊梅小路を含みます。東には平安京のメインストリートである朱雀大路があります。

この周辺では、京都市リサーチパーク建設やJR丹波口駅周辺市街地再開発に伴い、これまでに数多くの発掘調査が行われています。それらの調査で見つかった主な遺構は、五町のほぼ全域を占める平安時代前期の貴族邸宅跡が、六町では平安時代末期～鎌倉時代の池や御堂を備えた邸宅跡があります。

その他にも平安時代前期の楊梅小路(五町と六町の間)南側溝、平安時代後期の西坊城小路(三町と六町の間)西側溝、平安時代末期～鎌倉時代の西坊城小路西東両側溝、楊梅小路の北側溝が見つっています。

今回の調査成果

今回の調査では、平安時代前期の建物、平安時代後期～鎌倉時代の道路側溝や井戸が見つかりました。そのほかに江戸時代の土採取穴も多く見つかりました。以下、主な遺構について説明します

建物 1 平安時代前期の掘立柱建物です。身舎(母屋)は東西二間、南北三間以上で、東側に庇がつく南北棟の建物です。柱間は梁間、桁行とも 2.4 m (8 尺)、庇の出は 2.7 m (9 尺) です。柱穴の掘形は大きいものは一辺が 1 m 近くあり、かなり大きな規模の建物と考えられます。

井戸 81 平安時代後期～鎌倉時代の井戸です。掘形は直径約 3.5 m、深さは 2 m 近くある大きなものです。井戸枠の木材などは残っていませんでした。

溝 44・48 それぞれ平安時代後期～鎌倉時代の西坊城小路の東側溝です。溝は 44 から 48 へ掘り直されています。

溝 3 鎌倉時代の楊梅小路北側溝です。調査区の中央付近で途切れてしまいます。

溝 110 平安時代後期の楊梅小路南側溝と考えています。幅約 1 m で、西に行くほど浅くなり、無くなってしまう。北側溝の溝 3 とは少し時期差があり、またこの間の路面幅が狭くなってしまうため疑問も残ります。

溝 139 長さ南北約 2 m、幅約 1 m、深さ約 0.2 m。溝 44・48 とはやや東へずれますが、西坊城小路の東側溝である可能性があります。平安時代後期の土器が出土しています。

その他 楊梅小路に開く門かと思われる柱穴があります。

むすび

周辺のこれまでの調査では、平安時代前期と平安時代後期～鎌倉時代の 2 時期の遺構がまとまって見つっていますが、今回の調査でも平安時代前期の建物跡や平安時代後期～鎌倉時代の小路の側溝など、2 時期の遺構が見つかりました。一般に平安京右京域では、平安時代中期以降は空き地や耕作地が増え、衰退していくといわれていますが、この周辺ではやや状況が異なるようです。

今回の調査地では平安時代前期には建物 1 が造られます。この建物は柱穴の掘形の規模からみると、かなり大型の建物とみられます。調査地は朱雀大路の西に沿う三町という立地にあり、大規模な邸宅や役所が存在した可能性が考えられます。

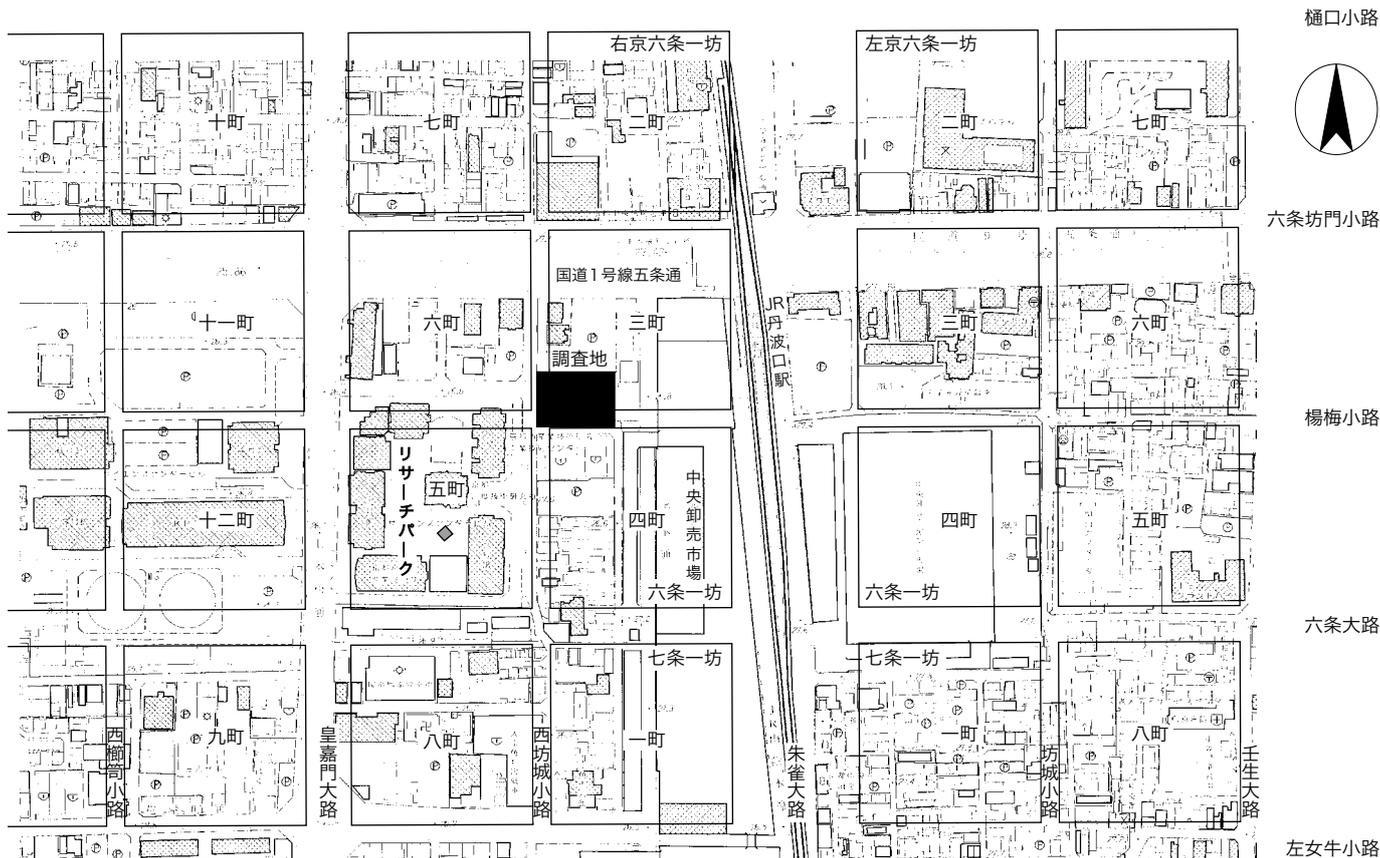


図1 調査地位置図 (1 : 5000)

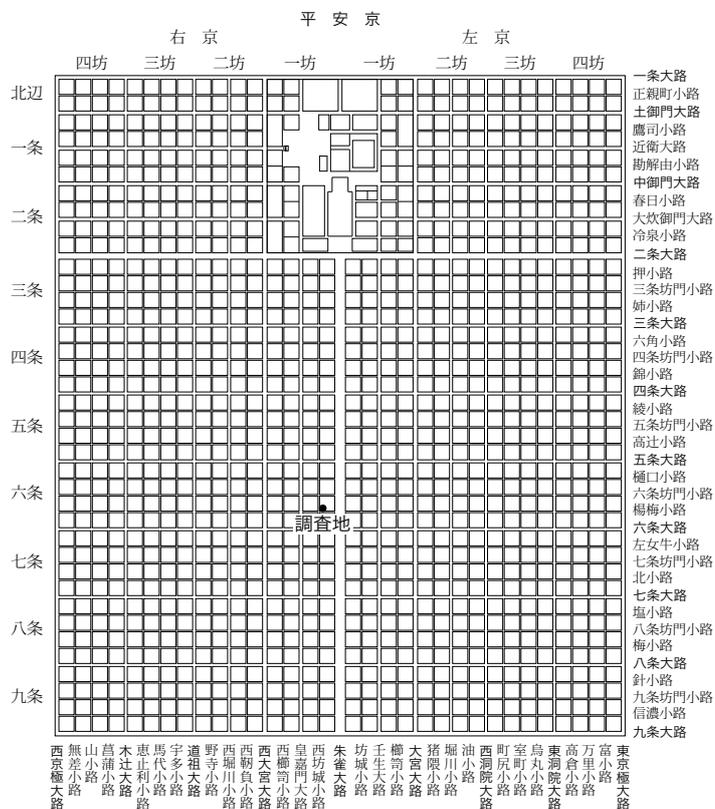


図2 平安京図

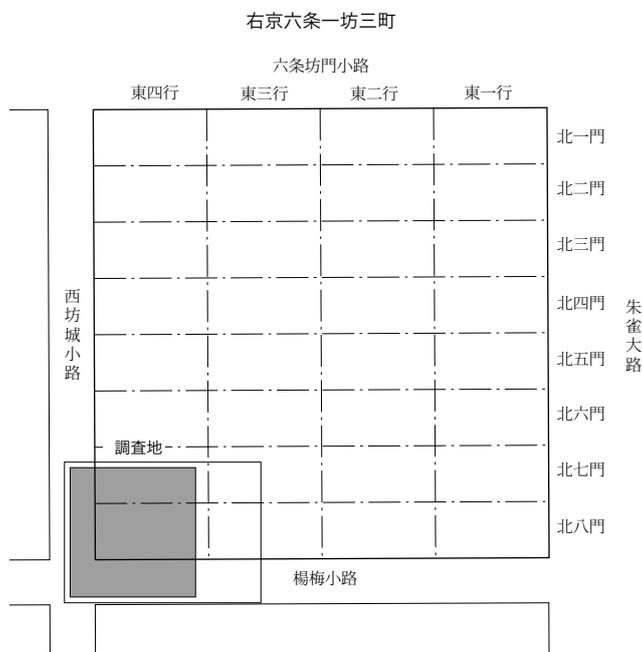


図3 四行八門

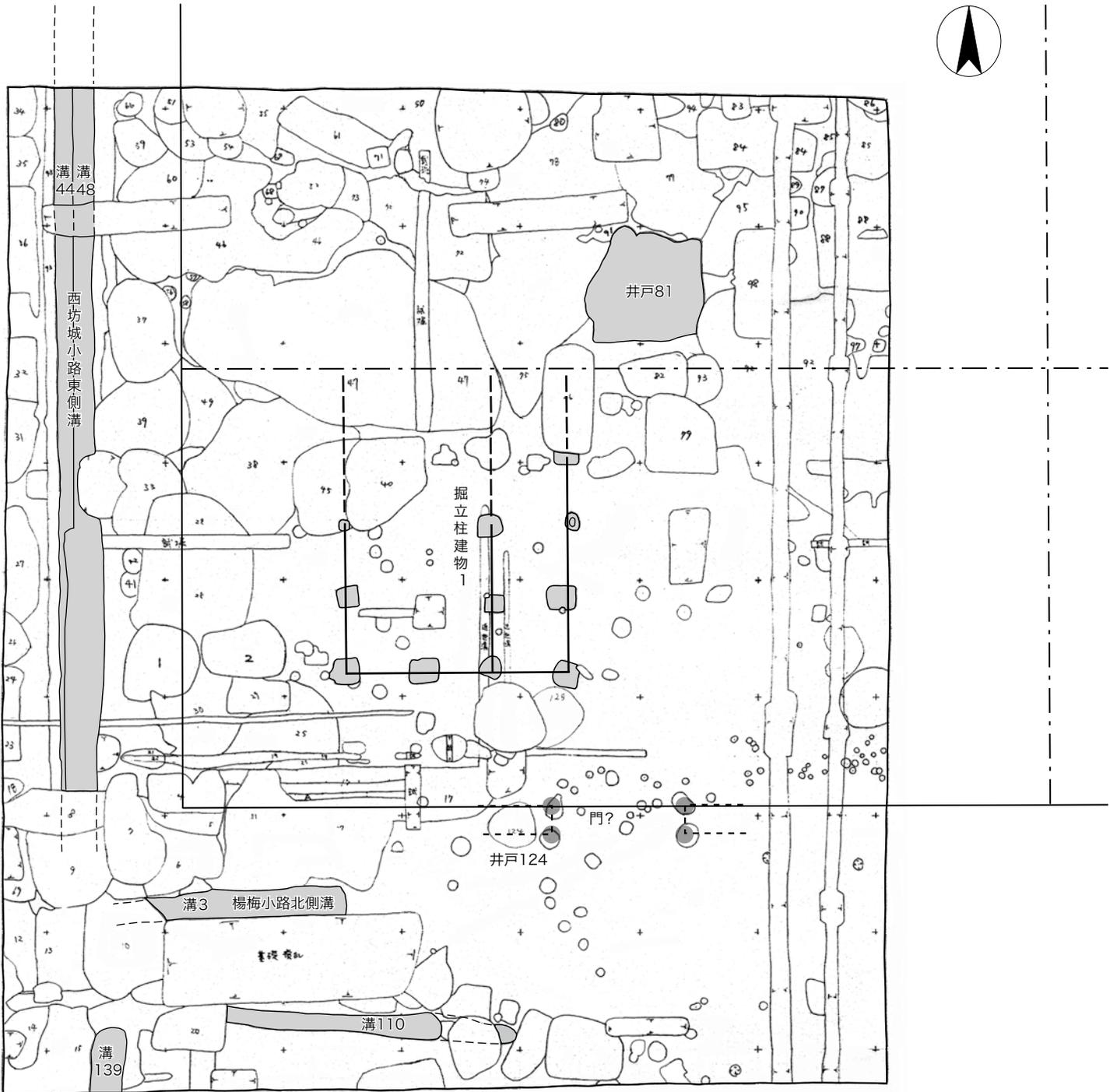


図4 遺構平面図 (1 : 200)

六条坊門小路

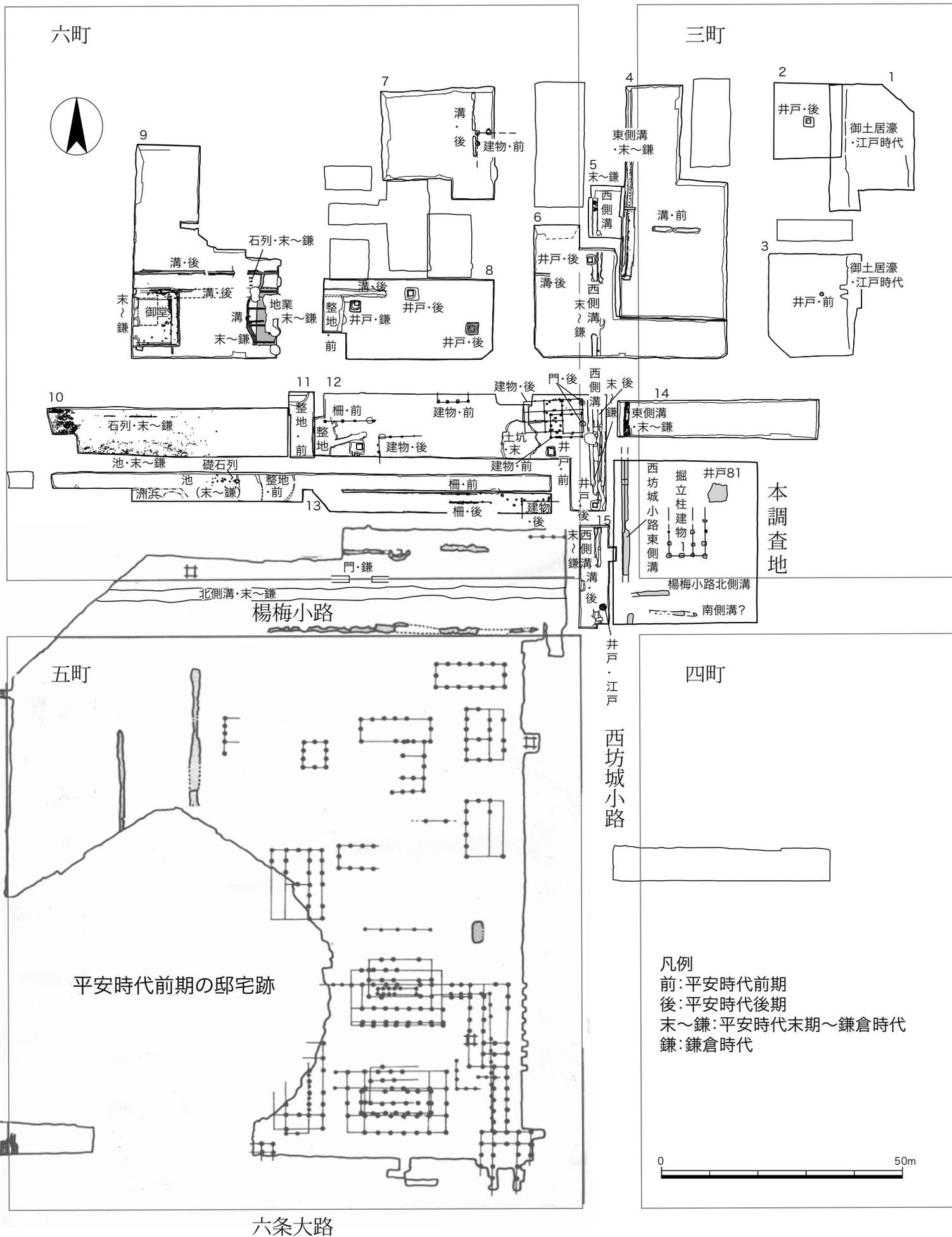


図5 周辺の主な遺構 (1:1000)